

第2回魚津市総合計画審議会 議事録

【日時】 令和元年11月7日(木) 14:57~17:18

【場所】 魚津市役所4階委員会室

【出席者】 委員 16名 清水会長、石塚委員、上野委員、浦田委員、大崎委員、大澤委員、大森委員、柿本委員、河内委員、川戸委員、関口委員、中野委員、中村委員、南部委員、米澤賢委員、米澤陽委員

市当局 9名 村椿市長、四十万副市長、畠山教育長、川岸企画総務部長、矢田民生部長、武田産業建設部長、宮野産業建設部次長、南塚教育委員会次長、広田上下水道局次長、赤坂企画政策課長、戸田課長代理、石坂主任

14:57 開会

事務局 定刻前ですが皆様お揃いですので、第2回総合計画審議会を開会させていただきます。

机上に配付した資料の中に委員名簿がございますが、24名の委員のうち本日8名欠席との連絡をいただいておりますのでご報告します。それでは会議の進行は会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長 皆さん、こんにちは。第1回の議事録がお手元にあるかと思います。前回どのような発言があったかを議事録を見ながら少し復習していただければと思います。

冒頭市長のあいさつの中で、人口減少、防災、市民協働の促進など、基本構想や基本計画の策定にあたって意識する視点について言及されました。また、財政立て直しプランの策定や魚津2040会議での公共施設の在り方の検討、人口減少時代の中にあって、いかに持続可能な社会システムを市民の皆様と共通の意識をもって作っていくかということ、魚津市民の一人一人の方々がその個性に応じて地域社会の形成に関わっていける、そういった地域を作っていくという方向性を指摘されました。

委員の皆さんからも貴重な意見をたくさんいただきました。

いくつか挙げますと、現在の第4次総合計画の検証が必要であるのご意見、これは本日の会議の議題になっておりますので後ほど説明があるかと思います。

また、魚津市の将来を自分事としてとらえること、年配から若い世代まで意識を共有、共感して一つのことに向かっていくことで少しずつ町が変わっていくというご発言があり、それを受けて市長からも若い世代の意見を取り入れることの大事さを指摘されました。

このほか議事録からいくつかご紹介しますと「仕事をつくり、若者や女性をはじめとする市民が安心して暮らせるまち魚津をつくろう」、「魚津の魅力とは何か考えていきたい」、「福祉をキーワードにしたまちづくり」、「若者、女性ももちろんだが元気な高齢者がたくさんいるので、元気な中高年が増えればまちも活性化する」、「市に何とかしてくれではなく、市民が何ができるかという立場で知恵を絞って考えていきたい」、「やめることと、発展させるべきことの取捨選択をすべき」、「隣接の市町村と一緒に取り組むことを考えるべき」など様々な視点からご発言がありました。本日もよろしくお願いいたします。

それでは議事に入らせていただきます。議事は（１）から（４）まで４つあります。

（１）は第４次総合計画の検証、（２）は市民意識調査結果の概要、（３）は第５次魚津市総合計画の構成及び審議予定案、これらについて事務局からご説明いただきたいと思います。そして、（４）魚津市が今後取り組むべき事項、課題に関する意見交換、これに時間をかけたいと思いますので、（１）から（３）の説明はできるだけ要点を絞って簡潔にお願いします。

それではまず、（１）第４次総合計画の検証について、説明をお願いします。

事務局 説明

会 長 資料１－１から１－３まで説明していただきました。ここまででご質問等があればご発言いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

A 委員 資料１－３の成果指標No.17「職員数」、No.18「電子申請の利用件数」の単位の修正、No.81「市内の道路改良率（国・県・市道等）」の記載に誤字がある。

事務局 申し訳ありません。修正します。

会 長 他にございますでしょうか。

B 委員 資料１－１の２枚目の転出数が１,５００人から１,２００人に減少しているのはなぜか。

会 長 明確な答えは難しいかもしれませんが、現状で構いませんので事務局から答弁をお願いします。

企画総務部長 １０年前は社会動態がマイナス２７０人、昨年はプラス５６人となっています。これは転入者が１,２００人台に回復したのに対して、転出数が１,１６０人と１０年前よりも約３７０人減っていることが要因です。年ごとの推移を見ると、転入者、転出者ともに減少傾向にあり、少子化や人口減少など影響により人口移動の絶対数が減っているのではないかと考えています。

C 委員 今の続きになるが、転出というのは進学や転勤などの理由が考えられる。１０年前と比較して転出者が１,５００人台から１,２００人前後に減ったのは、県や市が何か努力した結果なのか。それとも自然にそうなったのか。

企画総務部長 詳しい分析は難しいですが、少子化で子どもの数が減ったことで進学による転出も減るなど、移動の絶対数が少なくなるということは考えられます。

会 長 よろしいでしょうか。その他ございますか。それでは議事の（２）市民意識調査結果（概要）に移らせていただきたいと思います。資料２の説明をお願いします。

事務局 説明

会 長 ありがとうございました。質問等あればご発言いただきたいと思います。

D 委員 資料2の5ページ、「魚津市の良いと思うところ、自慢できるところ」として「自然災害が少ない」という項目が上位になっている。ところが、13ページを見ると取り組むべきことのトップは「自然災害対策」である。これはどう理解したらよいか、説明をお願いしたい。

企画総務部長 今まで富山県や魚津市は比較的自然災害が少ないという意識の表れが5ページの結果であると思う。ただ、全国的にこれだけ災害が多発していることから、魚津市も災害対策に力を入れるべきだという意識が13ページの結果だと受け止めている。

B 委員 先日、アンケートに回答した方と話す機会があり、9月に台風が続けて来たときにこのアンケートが届いたので災害の印象が強く、時期によっては違う回答になっていたと思うという話を聞いた。

D 委員 10月29日発信で11月に各家庭に洪水ハザードマップが配られた。片貝流域を見ると雨量が3倍、708ミリぐらい。洪水の面積、6.3倍、これほど大きな変化は資料としてきちんと説明しないといけないのではないかと。基本的には地球温暖化によってなされるわざ、もうステージが変わったよということで間違いないと思うが、これに対して市長はやはり人の命を守るという最優先すべきことを、きちんと政策を立ててやっていただく、これが一番のベースになる問題だと思う。

会 長 ありがとうございます。委員の皆さんはそれぞれの分野で活躍されているエキスパートだと思います。今の発言は自主防災連絡会の会長さんとして重みのある発言だと思います。行政側にもそういう対応をしっかりとってもらうこと、そして市民一人一人の横のつながりをしっかりと普段からできる準備をしっかりとしていく必要があると思います。その他のご発言ありますか？それでは議事の（3）第5次魚津市総合計画の構成及び審議予定（案）に進みたいと思います。資料3の説明をお願いします。

事務局 説明

会 長 ありがとうございました。資料3についてご質問等ございますか。ないようでしたら、残り1時間ほどになりますが、議事の（4）魚津市が今後取り組むべき事項、課題に関する意見交換に入らせていただきます。これまでの（1）から（3）まで説明をふまえて、委員の皆さんがお感じになられたこと、あるいは日頃の生活や仕事、取組みなどを通じてお考えになっていることなど、魚津市が今後取り組むべき課題、重点的に取り組むべきことに焦点を当てて様々な皆さんの分野や観点からご発言いただき、魚津市の素案作りに生かさせていただければと思います。

どなたからでも結構です。すでに発言された方も含め、お一人一回は発言いただきたいと思います。すみませんが、D 委員から順に発言をお願いしてもよろしいでしょうか。

D 委員 日頃から魚津市の状況、財政難であったり、流入人口、観光客入込数、低調ということで、じゃあどうすればいいのということで1つ2つお願いがある。

まずは、きっちりと財政的に豊かになるためにどうすればいいかと言ったら、やはり企業を誘致したり、魚津市の中で事業を起こす人たちを作っていくかといけない、それを行政が全面的にサポートする。これは非常に重要なポイントだと思う。そうして財政的に潤っているいろんな施策ができる。隣の市などに事業所が移ったり、本社機能が移ったりするのは、何か魚津に魅力がないのか、その辺を分析して考えていただきたい。特に市の職員の方、特に若い方はいろんなアイデアや知恵を持っているのではないと思う。そういう人たちをプロジェクトでも組んで有効に活用する、働いてもらうのが一番かなと思う。

それからアイデアとして、太平洋側に南海トラフがあって 30 年以内に 80%と高い確率で言われています。そういう中で魚津を例えば災害の受け入れ先として使ってもらい、そのため予算を国から引っ張ってくる、国土強靱化の1つとして使うのも手である。災害を起こった時のいろんな支援を北陸から太平洋側にというのも手だと思う。思いつきで言って申し訳ないが、そういった事業目線で考えていくことがこれからの魚津を発展させるベースになるのではないかなと思う。

会 長 ありがとうございます。E 委員お願いします。

E 委員 市民意識調査の結果を見ると、良い結果ではないかなと思う。若者の意見で子育てが安心なまちが上位になっている。昔の親もそうだったかもしれないが、今の親は子供が喜ぶことなら遠方でも出かけていったりするので、公園の整備だったり、子育てしやすいような施設なりを整備していくことで、外からの交流人口の増加や人口そのものが増えたりということにもつながっていくのではないかな。

あともう一つ、いろいろなブームがあると思うが、自分の周りでは釣りとかキャンプをしている人が多くて、そういった人たちをターゲットにした仕掛けをしていくのも面白いのではないかなと思う。

会 長 ありがとうございます。

C 委員 会長、ちょっとよろしいですか。途中で申し訳ないのですが、今どんな発言をしようかと考えながら思ったのですが、市がこの先5年10年をどういうビジョンを持っているのかを示してもらって、それに対して我々の意見はこうだ、もっとこうしてはどうかという進め方にできないでしょうか。

D 委員 まずは皆さんの意見を聞いてみればよいのでは。

会 長 間違っているかもしれませんが、市のホームページを見ると、今テーマになっている、魚津

市総合計画基本構想のところを見ると、将来にわたって安全安心な生活を送ることができるまちづくりの方策を示すと書かれています。将来にわたって安全安心な生活を送ることができるまちづくり、これがいわゆる基本理念に相当するものではないかと思いますが、それ以外の目標とか計画とかいろんなものについては、まだ示されていません。それらはこの審議会の中で行政側に提案させていただく余地があるのだらうと思っています。事務局から何かお答えいただけますか。

市長 まさにこの場が、10年後の魚津市がどういう地域になるかということイメージしてそこに向かってそれぞれの立場の方がいらっしゃいますが、どういうふうに関わっていくかということを描ければと思っています。どういう10年後の街っていうのはあまり抽象的に言うとたぶんわからなくなってしまう。例えば川戸さんが言われるように、市民の防災力を主眼に置いて、みんながそこに向かって何かアクションする、そういったことをイメージしてそれがベースだというふうになれば、それが1つのビジョンになります。若い人も高齢者もいろんな人が全部幸せにみたいな話になると、総合計画のビジョンというか共通目標として、少し抽象的になってしまうものですから、これからある程度高齢化が進んでマンパワーが減っていく中で、どうやってこの地域を活力あるものにするかといったときに、魚津の持っている特性や資源を目標にどうやって活かすかという視点で皆さんの意見をいただければと思っています、その中からこれをみんなで向かっていきたいと思います。したがって、まだ市の方からこれですというようなことを申し上げる状況ではないかなと思っています。

会長 ありがとうございます。そういったことでC委員よろしいでしょうか。

C委員 はい、すみません。ありがとうございます。

会長 途中でこのようにご発言があつてよいと思います。どんどん忌憚のない意見をいただければ。次、F委員お願いします。

F委員 資料2の施策の満足度の中で気になった点として、「水と緑の保全と活用」は3位と満足度が高いのに対して、「農業の振興」、「林業の振興」は順位が下の方で満足度が低いというところ。それと先ほど財政のことを言われていたが、水と緑の保全と活用の財源は、県民が500円ずつ出していて（水と緑の森づくり税）、県の予算ということで市の持ち出しはないと聞いている。財政難ということで、県や国の財源を活用していくこと。

それから人口の話で、新成人が270人と聞いて驚いた。自分の頃は東部中学校で400人、西部中学校で500人、900人いた。本当に少なくなったなど。前回の会議でも発言したが、やはり県外の大学に行ったらほとんど帰ってこないというか、帰ってこられるような手立てを何とかできないものかと感じている。

会長 直接関わっておられる林業についてももう少し突っ込んだご意見はございますか。

F 委員 林業に関しては、自分の山を知らない人が増えている。それで山に行かなくなり荒れているような状況かなと思う。昔は木材が住宅でも何でも使われていて高価だったので、木の手入れを一生懸命やっていたが、山の手入れをする人が少なくなり、自分の山がどこかわからないということが増えているのが現状。それにどう対応していくか、最近レーザー測量やドローンを使った調査、昔の地図を見て合わせたりといったことを考えている。

会 長 関係者が高齢化していて早く手を打たないと、ということですよ。

F 委員 山のことがわかる人がだんだん少なくなっている。

会 長 ありがとうございます。中村委員お願いします。

G 委員 財政の問題、人口の減少は市政運営で最重要課題かと思う。資料を見ると、9月1日現在で前年比346名減少ということで、この数値からいくと本年度は過去と比べても下げ幅が大きくなるのではないかと。自然動態をプラスにするのはすぐにできるはずもなく、社会動態のプラスから定住、出産の流れを作らなければならないと感じる。9月の市民意識調査で工業、商業、観光振興、それから行財政経営、雇用環境の充実の満足度が下位になっていた。望む将来像からも同じ希望がうかがえるかと思う。安定した収入があって、家族と過ごす時間を持ちたいというのが若い世代のライフスタイルだと思う。黒部の方に流出しているという話もある。やはり通勤距離の近いところに住みたいという要望として多いと感じる。企業があるところが繁栄するとは限らないが、やはり企業を中心としたさまざまな開発が行われるというふうな思いがある。魚津市の区画は一生懸命頑張ってきたが大変難しい問題ではあると思うが、やはり今後何をすべきか、何ができるかということになる。ありきたりだが、例えば災害の問題。災害の少ない都市というのは見直されていると思う。そう考える企業も多いはず。企業誘致、もし新規企業が難しければ、魚津市の企業で生産拠点の集約や営業所を戻したい、生産性を上げて同業他社との競争力を高めたいという企業はあると思う。何が必要かとなれば用地やここに戻ってくるメリットがあること。市長がおっしゃっている若い人の斬新な意見を取り入れながら、何ができるかということを中心に考えるべきだと思う。

会 長 ありがとうございます。H委員お願いします。

H 委員 子育て世代や個人事業主の立場から、最近の大きな出来事として小学校の統廃合がある。統廃合によって小学校がなくなった地域が多く生じた。小学校はもちろん子供たちの学びの場というのが第一だが、地域にとってのコミュニティの場でもあると思う。住民運動会やバザー、子供や孫が通う学校に親や祖父母として、あるいは自分の子供が通っていないけれども、年に何度か開かれた地域の場というものに地域の方たちが集うという意味で、小学校がコミュニティの場としての役割を果たしている。今は統合直後なのでそれほど影響は表れていないかもしれないが、5年10年先どうなっているかと考えると不安を感じる。そういった面について先手で考えていってほしい。市民意識調査の結果に関して、魚津に住んでいる人たちが7割がた住みやすいと答えているが、学校

を通して、地域の方が集まることで地域を伝える場になったり、自分たちの暮らしを共有する場になっていたものが薄れていくのではないかと。そういう環境で育った子供たちが大人になった場合、魚津を住みやすいと考えるかどうかという不安がある。

私自身の思いとして魚津市はすごく希望の塊だと思っていて、県内で見ても富山市に比べると小さな都市、小さいからこそ何とかできるのではないかと。黒部市は大きな企業に頼った財政、成り立っている時はいいが、大企業に何かあったら一気にどん底に落ちる不安がある。魚津は大きな企業少ないが、マイナスにとらえず強みにして、小さな企業多種多様な事業者がいる状況、大きな波はなくても安定感のある流れを作っていく。持続可能なまちを形成するというのを目標とすれば、何か1つのことではなくて、いろんな人がいろんな形でいろんな思いを持ってみんなが頑張っている状況を作り上げること。それを魚津市は逆にやりやすいのではないかと。そこを強みにしてどんどんよくなってほしいし、自分も頑張っていきたいと思って暮らしている。

会 長 ありがとうございます。I 委員お願いします。

I 委員 先ほどの市民意識調査の関係で、台風の際中に実施されたものだから自然災害対策や防災・地域の安全が一番になっている。先月、本江地区で火災が発生した。(火災があった)大光寺地区は他地域から移ってきた方が多く、その世代が卒業する時期に差し掛かっている。その次の世代はほとんど市外に流出している。何を言いたいかというと、やはり道路が狭い。これは魚津市の長きにわたっての反省点だと思う。

先ほど D さんがおっしゃっていたが地域防災力、魚津市総合防災訓練をはじめとして、今までやってきた積み重ねがようやく少しずつ実を結んできていると思うその表れとして、防災の要支援者の地区説明会を民生委員や地域振興会など 70 人ほど対象に開催したところ、それ以外の方も参加されて 76 人集まった。まだ入り口のところだがそういう動きが出てくるようになった。少しずつでも繰り返しやることで成果が上がってきていると思う。

もう 1 点は、先日の新聞報道で人口の半分の住宅がある。全国で 6,000 万戸を超えていると。市でも空家の調査をされたと思う。その集計が出ていけば魚津市の空家が何件あって、どういう方針になっているのか、経田で行政が取り壊しをした事例があったと思うが、これからそういうことが頻繁に出てくるのではないかと。

会 長 ありがとうございます。A 委員お願いします。

A 委員 先日、天神分団の消防ポンプ車を更新していただき感謝申し上げたい。これからも市民の安全安心、生命財産を守るという使命を果たしていきたいと思っている。近年、団員数が減少傾向にあり、これが私たち消防団が抱える一番の課題である。団員であっても普段地元にはいないという人も増えている。一方で、自主防災組織など地元の人たちで活動していただいていることは大変ありがたいと思っている。

会 長 ありがとうございます。J 委員お願いします。

J 委員 魚津商工会議所が地域活性化を目指して取り組んでいる STAR UOZU PROJECT の一環として、商工会議所女性会でありんごオーナー制度に取り組んでいる。今年で3年目になり、いろいろ考えるところがあった。もともとは魚津の良さを外の人に知ってもらいたい、交流人口を増やすこと、外からたくさんの人に来ていただいて、魚津のファンを作って魚津にお金を落としてもらおう、そういったことを目指して始めたものである。しかし、実際に始めてみると県外の方は少なく、市内の方、県内の方が多くて、ほぼ富山県内で完結してしまう状況となった。これはよくないということで、来年の課題として、県外の方で魚津を好きになってくれる人を増やすためにどうするかを考えていく必要がある。その一つとして、これまでは春にりんごオーナー制度の案内をしていたのを、駅前の観光案内所を訪れた人に通年で案内するようにして、地道だが少しでも県外のオーナー増につなげ、魚津の良さを PR してファンを増やしていきたいと思っている。

市民意識調査の結果は、もちろん市民のニーズとして受け止めなければいけないと思うが、あまりそれだけにとらわれてしまうと安定的な考えになってしまいがちである。魚津の強み、先ほど H さんがマイナスをマイナスでなく、プラスにとらえて強みにしていくというようなことを言われたと思うが、魚津の天神山交流館、財政難で切り捨てられるというようなことが新聞に載っていたが、あの施設は本当に素晴らしくて、ああいう施設は本当に他にはない。最近までとやま室内管弦楽フェスティバルが行われていて、世界にはばたく音楽家たちがそこで合宿をして、世界を代表する音楽家が講師として指導している。私もボランティアとして少しお手伝いをして、この魚津で、世界で活躍しているすごい人たちが音楽のことを一生懸命語り、一生懸命練習している姿を見て本当に感動した。そういうところを強みにして、この施設を潰すのではなく、例えば全国のブラスバンド部の合宿所になるような施設にするなどできないか。これだけ音響や防音施設が整っていて、音を出しても外に聞こえない。地元の天神の人たちもみんなやさしくて野菜や差し入れをいっぱい持ってきてくれる。こんなに素晴らしいところはないと思う。

毎年、女子野球の人たちも魚津で合宿しているし、やっぱり魚津で全国大会があつて来てよかったねという印象を持ってもらい、発信してもらおうことで、プラスの相乗効果が生まれると思う。

会 長 ありがとうございます。K 委員お願いします。

K 委員 市民意識調査で「高齢者や障がい者などすべての人が安心して暮らせる福祉のまち」が前回に続いて最も多いということで、やはり関心が高いのだなと感じている。福祉の現場にいる立場として、自分たちもそういった思いをかなえられるようにということでこれまで一生懸命取り組んできたし、やってきたつもりだが、じゃあそこまでの満足度があるのか、これからどうしていくのかという課題はあつて、でも一方で高齢化が進み、マンパワーの減少もある中で、もうこれは福祉という分野だけではなく、いろんな人たちがつながって考えていかななくてはいけない。いわゆる福祉と言われる人たち、民生委員や地区社協の人たちだけではなくて、新しいつながりの中で課題を共に考える場を作っていないと解決していかないなと思っている。そういう意味で、縦割りとはよく言われるが、魚津市でも福祉課とこども課が離れていたりとか、市の中でも少し話がしにくいところがあるのではないかな。昔は一緒にあつたことによって話がしやすかったり、いろんな問題に対しても横で

聞こえていたりしたと思う。今の環境の中では、意図的にみんなで話し合う場というのを作っていかなくてはと思っている。先ほど、小学校がなくなることで地域の拠点がなくなることへの不安について発言があったが、人が何かを一緒にやっというとしたら、どこかに集まってちょっと話そうねという場所が日常的にあることが大事かと思う。その場所にどんな人がいるかということで、つなげていく人がそこにいると、いろいろな課題がバラバラではなくてつながっていく、コーディネートしていく機能、それが地域単位なのか、あるいは市全体で考えてもよいのかもしれないが、そういう場所というもの建物を含めて必要ではないかと思う。

会 長 ありがとうございます。L 委員お願いします。

L 委員 市が今後取り組むべき課題、重点的に取り組むべきことについてピンポイントでの提言は難しいが、先ほどの説明の中でも市民アンケートで多くの方から回答を得て集計されているので、それをフィードバックすることで参画意識が高まっていくと思う。タウンミーティングで結果を説明してさらに具体的な思いを聞くとよいと思う。また、項目ごとに市の見解もまとめられているので、それをもとに具体的な手がないうというやり方で進めていくのもよいと思う。

会 長 ありがとうございます。B 委員お願いします。

B 委員 個人的には魚津市に住んでいて特に不満はない。あえて言うなら、市民意識調査の中で魚津市の悪いと思うところ、改善すべきと思うところで挙げられている、観光資源を活かしきれていないというところ、他の委員さんもおっしゃっているが、自然、人、施設、すばらしいものがあるのに何か活かしきれていないところがあるのが不満というかもったいないと思うところである。漠然とした言い方だが、財源的なことや企業が多いということではない豊かさを感じられるまちづくりがよいのではないかと考えている。その豊かさとは、他の委員さんの発言の中で様々な視点から触れられているように思う。1 回目の審議会で、自分ごととしてとらえることが大事という意見があった。市のことを自分ごととしてとらえるのは距離感があってなかなか難しいことだと思うが、市民一人一人の意識改革というか、何がきっかけで意識が高まるのかはわからないが、魚津市では地区ごとでいろいろなことをやっておられるので、地区ごとで切磋琢磨して熱量が出てくるということもあるのかなと思う。

それから、周りの人にどういう魚津だったらよいか、10 年後どうなったらよいかということ聞いてみた中で、学童保育に来ている子供に聞いたら家が無料になるといいと言っていた。なぜそんなことを思ったのかそれ以上は聞かなかったが、それをきっかけに少し考えたこととして、空家などを仮に無料で提供することができて、そこに人が来られれば、そういった人たちのパワーで活性化にもつながるのではないかと。

会 長 ありがとうございます。C 委員お願いします。

C 委員 農業委員会や土地改良区の仕事もしているので1 次産業について話をしたい。政府の国土

強靱化の政策について講演を聴く機会があり、初めはダムや堤防や道路を作る話かなと思いつつ聞いていたが、1次産業である林業、水田、畑の保全が大切であるという話であった。では1次産業の現状がどうかというと、担い手が不足している。後継者がいない。魚津市に営農組織が20~30ほどあるかと思うが、その構成員の平均年齢が75歳。あと5年10年、いつまでできるかわからない。出し手はいっぱいいるが受け手がいない。水田の維持管理ができない。ひいては国土の環境保全ができなくなる。魚津市の山間部でも管理がされていない雑草だらけの水田がある。鳥獣被害で中山間の方々も苦労されている。国もかなり予算を投じているようだが、現場で世話をする人が不足している上に高齢化していて後継者もいない。これが1次産業の現状。ではそれを解決するにはどうするか、市の農林水産課や農協に何とかしてくれではなくて我々がやらなくてはいけないと思っている。農業委員会として農地の集約とかいろいろ進めているが、魚津市全体でやろうとしてもなかなかできない。例えば道下地区と上中島地区では圃場の条件も違う。地区によっていろいろなやり方がある。道下では個人の専業農家ではなくて営農組織で継続的に運営できる体制にできないかということで、関係者で少しずつ話を進めているところ。地域によってはなかなかそこまで話が進んでいないところもある。(現計画の施策体系に)「地域の特性を活かした農林水産業の振興」とあって、この中で今回も出てくる話かと思うが、我々も危機感を持って自分たちが元気なうちに後継の担い手をとっている。

会長 ありがとうございます。M委員お願いします。

M委員 持続可能ということを考えると、人口が増えれば全て解決すると思うが、現状ではそうもいかない。子供を増やすことはなかなか難しいけれども、まず魚津に住んでいる若い人たちに定着していただいて、子供を生み育ててもらおう。若い人が魅力的に感じる、ここに住みたいと思える環境を提供することが一番の政策であると思う。この先の10年間は、いかに流出人口を減らして流入人口を増やすかということに重点を置くべき。魚津市は福祉政策については県内でもトップクラスだと思う。福祉政策はこれ以上拡大せず現状維持の中で、健康寿命をいかに伸ばすかということと若者の定着によって人口を減らさない努力をすることに尽きるのではないかな。

行政があまりいろいろな意見を聞きすぎるのもよくないと思う。市はこの政策でいくと決めたことをしっかりと市民にアピールして、リーダーシップをとって進めていってもらいたい。

会長 ありがとうございます。N委員お願いします。

N委員 市民意識調査の結果で魚津市の良いところ、自慢できると思うところ、ここに全部出ていると思う。コンパクトシティで魚津に住むことがブランドだというふうになれば良いと思う。商業都市として近隣からも買い物に来るので、そういう人たちをもっと取り込んでいってもよいのではないかな。一方で、魚津市の悪いと思うところ、改善すべきと思うところとして、観光資源を活かしきれていない、交通の便が悪いというのは観光ガイドをしていて常々そう思う。先日、山の守キャンプ場で紅葉まつりに年配の方を案内したら大変喜ばれたと同時に、バスでもあれば来られるんだけど、と残念がっておられた。

それから、魚津でも釣りやキャンプがブームだと先ほど言われていたが、山の守キャンプ場の人に聞いたところ、自分が思っている以上に多くの人に来ており、売上が聞いてびっくりした。山の守キャンプ場もできてから10年あまりになるし、桃山運動公園は毎年8月に女子野球があり春は桜もきれいで、そういうところに市バスが通らないかと思う。市街地バスは西回り、東回りは大変評判が良く、喜ばれているが、山間地の方になるとなかなか通っていない。山の守、桃山、天神山といった場所に行けるように、魚津の海と山の近さを感じられるようなルートを考えてもらえないか。財政も厳しいのでバスでなくてもワゴン車のような小さいものでよいと思う。午前中は海で釣りをし、午後から山でキャンプをするといったような、他にはない魚津の魅力をバスを使って楽しめるようなになればよいと思う。

先ほどりんごオーナー制度の話があった。今までりんご狩りは新芽を摘むということで断っていたが、りんごオーナーになってそういうことができるということを大々的に発表できたら、今度はりんごの木が足りなくなるのではないか。人を呼び込むのによいと思う。

空家対策も1～2件取組事例が出てきているので、市としてもそうしたところに力を入れていただき、交通の便と観光施設を結ぶ工夫をしていただけたらと思う。

会 長 ありがとうございます。O委員お願いします。

O 委員 先ほど学びの森の話で河内委員からすべておっしゃっていただいた。やっぱり残してほしいという声を聞いていただけているのか。若い方が学び集まっていることをご存じなのか。若い方があそこで頑張っているところを目にしているとやはり活気づく。ぜひ検討してほしい。

防災に関して、災害が少ない＝自分たちは大丈夫という感覚になってしまうのではなく、ハザードマップを見ると、これはほぼ助からないと思ったが、具体的にどうしたらよいか。

D 委員 やはり早期の避難である。

O 委員 それと防災無線が聞き取りづらい。耳をすましても何を言っているかわからない。

企画総務部長 タウンミーティングで各地区を回っていてもこの話は必ず言われる。女性の声でゆっくり話すなど工夫しているが、やはり気候や風向きによって聞こえにくいのはやむをえないところもあると思っている。仮に聞こえなくても防災無線で何か言っているということを確認していただき、例えば気象警報であればケーブルテレビでも知らせているのでそれを見てもらったり、23-1118に電話してもらえれば同じ内容を聞くことができる。市もPR不足なところはあったかもしれないが、今後そのような形で周知していきたい。

会 長 皆さん、ありがとうございました。はい、どうぞ。

産業建設部長 先ほどI委員からご質問があった空家調査の件については、現在担当課でデータ入力をして集計作業を行っています。結果がまとまったらお知らせします。

I 委員 よろしくお願ひします。

会 長 ありがとうございます。それぞれ課題を深掘りしていただき、各種の貴重なご意見を多数いただいたものと思っております。魚津市の強み・特徴をいかして、市民が主体的な活動を行政がサポートする、市民が主人公であるということが皆さんの発言から感じ取らせていただきました。

もしよろしければ委員の皆さんが拠点となって、そういうパワーを取りまとめていただくように希望したいと思います。

財政に関して、国や県の支援を積極的に活用する、予算を取ってくるということ。先ほど防災、災害関係で太平洋側での災害時のバックアップを富山が担うことが可能だと思います。富山市のインテックはバックアップデータのステーションを持っていて収益を上げているそうですし、日本全体が危ない時はどうするかというと中国の大連にソフトバンクの施設があって日本からのデータが保管されているそうです。そういう高度な情報のバックアップ、それをどこでやるか、富山など日本海側の地域は可能性が高いと思います。また、電力やエネルギーのバックアップ、これも首都圏や関西圏は不足していて、地熱発電など富山の場合は県全体の電気消費量に相当するぐらい、北アルプスの地熱で賄えるだろうと言われていて、そういうものを北陸電力などが中心になって研究しているそうで、それが軌道に乗れば災害時でない時に電気を売って儲けることもできるわけです。そうなることと貢献するだけではなく収入にも結び付けられるということになると思います。

D 委員 ちょっと一つよろしいですか。会長からそれぞれ旗を掲げて頑張ってもらいたいという話があったけれども、浦田委員もおっしゃっていたが、市長、ここまでくると市がリーダーシップをとるしかないのでは。テーマもいろいろあるが半分ぐらいに絞ってはどうか。そして優先順位を決めてこれで行くというのを市長自ら掲げていただいて、若い人、市の職員を中心にどんどん動かすと、これしかないと思う。そして常に事業目線で考えていく。先ほどりんごの話があったが、あれもりんごだけではなくてジャムを作るとかね。

J 委員 女性会はそこを目的としているわけではなくて、もしそこを目指すならりんご農家さんなり組合でオーナー制度やそういった取組を進めていただければ。事業目線ということには賛成。

D 委員 すみません。誤解もあるかもしれないが、言いたいのは事業として儲かる仕組みを作ってもらいたいということ。200円のりんごに付加価値を付けて800円で売ることを考える。市長、そういうことでぜひ事業目線をお願いしたい。

会 長 ありがとうございます。あともうひとつ、今もご発言いただきましたが、やはり優先順位を検討していただければと思います。それでは時間もきていますので、事務局にお返しして最後のところをお願いします。

事務局 会長ありがとうございます。事務連絡を2点いたします。

①意見用紙について

本日欠席の島津委員よりスポーツと地域の活性化というテーマで意見をいただいたので机上配付している。

②議事録について

審議会ごとに議事録を作成・公表する。公表にあたっては発言者の個人名は出さず、A委員、B委員といった表記としたい。

それでは最後に市長よりご挨拶申し上げます。

市長 会長をはじめ委員の皆さんどうもありがとうございました。最後の方に会長やDさんからもありましたが、究極の課題は持続可能性ということで、将来未来につながることは何かということだと思います。おそらくそれは子供たちだと思います。子供たちを主人公に据えていろんな分野の人がどうやって関わっていけるかというふうなことを考えていくことは、ある意味究極の計画だろうと思っています。今日いただいた意見をしっかり頭に入れて、我々の中の中心線というものを考えたいと思います。皆さんとしっかりと力を合わせて未来につながる計画づくりをしていきたいと思えますのでよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

事務局 以上で審議会を閉会します。ありがとうございました。

17:18 閉会